

【配点】 1・2・3 各2点×20 4・5 各4点×15

1

1 光 栄
2 花 粉
3 保 健 室
4 反 省
5 努 め る

6 力 士
7 差 別
8 孫
9 ゆうぼう
10 つ げ る

2

1 馬
2 犬
3 か め
4 た か
5 つ る

3

1 イ
2 才
3 才
4 エ
5 エ

4

1 I 一 人 前 の 男
II 母 ち ゃ ん と

2 渡 り 廊 下 を 中 学 校 か ら 一 人 で 盗 ん
で く る こ と 。

3 一 石 二 鳥
4 青
5 橋 の ため
6 エ

5

1 食 材 を 使 っ た も の
(1 完答)

2 日 本 人 の 食 生 活 が 西 欧
化 し た か ら 。

3 I 米 を 使 っ た など
II バ ラ 。

4 エ
5 多 種 多 様 な 調 味 料
6 イ
7 食 文 化

1 (漢字の書き取り・読み取り)

1 「光栄」とは「名誉であること」という意味である。「栄」の上の形はカタカナの「ツ」のように書く。「光」のように真ん中をたてにまっすぐ書かないように気をつけよう。2 「花粉」の「粉」の左側を「糸」にしないように気をつけよう。3 「保健室」の「健」を「建」としないように気をつけよう。「にんべん」は人間に関連する字に用いられる。意味と結びつけて覚えよう。4 「反省」の「省」の「目」の部分を「日」としないように気をつけよう。5 「努める」は他の同訓異字と区別できるように、意味も正確に覚えておこう。6 「力士」は「士」の上の横棒を下の横棒よりも長く書こう。7 「差別」の「差」は四画目のたて棒と七画目のはらいをつなげて一画で書かないようにしよう。「別」の「口」の部分はしつかりと三画で書こう。8 「ひ孫」とは「孫の子」という意味である。「孫」の右側を「糸」としないように気をつけよう。9 「有望」とは「望みや見込みのあること」という意味である。「望」は「ボウ」と読むことばと「本望」などの「モウ」と読むことばを区別して覚えよう。10 「告げる」とは「多くの人々に知らせる」という意味である。

2 (ことわざ)

ことわざの学習の際は、それぞれのことばの意味を理解して、自分自身で使えることばにしていこう。また、それぞれに係の深いことばを結びつけて覚えるのもよいだろう。たとえば1の「馬の耳に念仏」は似た意味のことわざとして「猫に小判」や「豚に真珠」がある。

3 (形容詞・形容動詞)

形容詞・形容動詞は、「ものごとどのような状態」「ものごとから受ける印象」「人物の気持ち」を表すことが多い。言い切りの形が形容詞は「い」で終わり、形容動詞は「だ」で終わる。

- 1 「いい」となっているものをさがそう。
- 2 「いい」の形にできるものをさがそう。「改めたい」は「改める」という動詞に「たい」がついたものである。
- 3 「くだ」となっているものをさがそう。
- 4 「くだ」となっているものをさがそう。
- 5 「くだ」の形にできるものをさがそう。形容動詞は「くに」の形にもなる。「白い」は形容詞である。

4

- 1 線①の五〆六行後の達夫のことばから、良平が新橋から飛ぼうとするのは母ちゃんや姉ちゃんを喜ばせるためであることがわかる。しかしこの部分では「くだ」という理由。につながらないので、同じような意味のことばをさがすと、本文の最後から六行目に「早う一人前の男になって、母ちゃんと姉ちゃんを安心させてやらなアカン」とある。
- 2 良平は何をすることを嫌がっているのか？ と考えよう。――線②の二行前に「渡り廊下を中学校から盗んでくるのは良平一人の役目になった」とあり、その後に「そんなことがいったい自分にできるのか」とある。盗みを一人だけすることが不安で、なんとか回避しようとしたのである。
- 3 「一石二鳥」とは一つの行為によって同時に二つの成果をあげることである。ここでは良平が一人で渡り廊下を持つてくるところで隠れ家の床が新しくなるし、度胸をつけることもできると言っている。
- 4 線④の直後で博信が良平に「その心配性」と言っていることから、――線④は心配している表情であることがわかる。
- 5 酒を飲んだ日のできごとが書かれている【中略】以降から、何のために酒を飲んだのか？ と考えてさがそう。
- 6 教師である美樹が、「私も(酒盛の)仲間にいれるべき」というあまりにも意外な発言をしたので驚いているのである。

5

- 1 通読時に「発酵食品」とはなんだろう、という疑問を持って読み進めたい。すると、次の段落で「発酵食品とは」という形で説明されていることに気づけただろう。
- 2 直後の文で、『食』の変化(西欧化)が重要な要因」と述べられている。三行後にある同じ意味の「食生活の西欧化」を使うと答えが作りやすい。
- 3 同じ段落内で「日本食こそ、日本を世界一の長寿国にした」という――線③と似た表現が書かれていた。その直前で「日本食」がどのようなものか、説明されていた。
- 4 「縁の下力持ち」とは「目立たないが、陰から全体をサポートする人」のこと、まさに「陰の実力者」である。
- 5 指示語などで直前をさがすのが基本である。麹菌を原料にして何を作るのか、と内容から考えるのも大事なことである。
- 6 本文と合うものをえらぶタイプの問題では、それぞれの選択肢の内容をしっかりと本文と見比べることが大切である。あいまいな記憶だけを頼りにしないように気をつけよう。
- 7 麹菌を原点として、「1000年以上にわたる醸造の歴史の変遷を経て完成された」のはなんだろうと考える。そこから、第一段落の「食文化をつくり上げています」という表現を見つけない。また、通読時に「発酵食品が日本の食文化をつくり上げた」という話題に、「麹菌」がどのように関係しているか、というように考えることも大切である。「食生活」や「調味料」は、「1000年以上」かけて「完成された」という説明や、「原点」ということばと合わない。

以上